

# 令和5年度 入学生

ディプロマ・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

アドミッション・ポリシー

## 仁愛女子短期大学(大学全体)の三つの方針

### 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

仁愛女子短期大学は、すべてのいのちのつながりの尊重と相互敬愛の仏教精神を基本とする「仁愛兼済」の建学の精神のもと、教育基本法および学校教育法に遵い、専門の学芸の教授研究と徳性の涵養を通して、教養豊かにして社会の発展に貢献する健全有為な女性を育成することを目的としています。このため次に掲げる学修成果を修得し、本学の定める卒業要件を満たした学生に、短期大学士の学位を授与します。

1. 建学の精神に沿った学びを通して、豊かな人間性と幅広い教養を身につけている。
2. 授与される短期大学士の学位の分野に応じた専門的な知識・技能を修得し、実践的な能力を身につけている。
3. 四恩に気づき、和敬・精進・反省の態度を身につけている。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

学科(専攻)ごとに定めたディプロマ・ポリシーに示す学修成果を獲得するため、豊かな人間性と幅広い教養を養う「教養科目」及び専門的能力を養う「専門科目」で編成し、講義、演習、実験・実習・実技を適切に組み合わせた授業を体系的に配置します。

### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

本学の建学の精神及び教育理念に基づいた教育研究活動に取り組める、以下のような人物を入学者として求めています。

1. 豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、人とのつながりを大切にしようとする人。
2. 明確な目的意識を持ち、高い専門性を身につけるために主体的に学ぼうとする人。
3. さまざまな事柄に関心を持ち、諸活動に意欲的に取り組もうとする人。

## 学科の三つの方針

### 生活科学学科

生活科学学科(以下、「本学科」という。)は、建学の精神である「仁愛兼済」の理念のもと、教養及び生活に関する科学的理解を基盤とした専門知識と技能を教授し、心豊かで有能な人材を育成することを目的としています。

本学科は生活情報デザイン専攻・食物栄養専攻の2専攻で構成され、各分野についてより専門的に教授研究を行うこととしています。

本学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)は、以下のとおりです。

#### ■生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

本学科では、本学の課程を修め、教養科目12単位以上の修得、学科共通科目10単位以上の修得、各専攻専門科目を含めた合計64単位以上の修得と必修等の条件を満たしたうえで、下記の能力(生活科学学科の学修成果)及び所属する専攻で身につけるべき能力(専攻の学修成果)を備えた学生に学位「短期大学士(生活科学)」を授与します。

#### ●生活科学学科の学修成果

本学科で開講する教養科目及び学科共通科目を修得することにより、建学の精神及び学園是に沿って、下記の能力(学修成果)を身につけます。

知識・技能	1. 人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 2. 人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。 3. 人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。
思考力・判断力・表現力	4. 社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 5. 社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 6. 社会生活における他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。
主体性・多様性・協働性	7. 他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。(和敬) 8. 自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進) 9. 人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)

専攻別	生活情報デザイン専攻	食物栄養専攻
	生活情報デザイン専攻で開講する専門科目を修得することにより、下記の能力(学修成果)を身につけます。	食物栄養専攻で開講する専門科目を修得することにより、下記の能力(学修成果)を身につけます。
知識・技能	1. 情報技術に関する知識・技能を身につけている。 2. マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。 3. デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	1. 栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 2. 人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 3. 食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。 4. 栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。
思考力・判断力・表現力	4. 問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 5. 問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。 6. 他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	5. 常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 6. 栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 7. 専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。
主体性・多様性・協働性	7. 主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 8. 建学の精神「仁愛兼済」にもとづき、多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。 9. 地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	8. 自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。 9. 「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。

#### ■生活科学学科の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

本学科は、生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる生活科学学科及び所属する専攻の学修成果(卒業時に備えるべき能力)を身につけるため、教養科目、学科共通科目、専攻専門科目を体系的に編成し、講義、演習及び実習を適切に組み合わせた授業を開講します。教育課程の体系は、各科目の学修成果を示したカリキュラムマップによって、わかりやすく明示します。

#### ●生活科学学科が開講する教養科目及び学科共通科目の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

「生活科学学科の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)を身につけるために開講する教養科目及び学科共通科目に関する教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

教育内容	1. 「建学の精神」に関する教養科目 すべてのいのちのつながりを重んじ、美しい世をひらくために尽くす心と力を育てます。建学の精神「仁愛兼済」についての講義と仏教行事の体験、他者の考えや活動報告への傾聴、学外ボランティアなどを通して、総合的に学びます。 2. 「現代の教養」に関する教養科目 「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」に関する講義、社会人になるためのマナーに関する演習などを通して、教養を学びます。 3. 「健康」に関する教養科目 講義及び実技を通して、健康や体力づくりについて学びます。 4. 「コミュニケーションスキル」に関する教養科目 英語や中国語の外国語と情報リテラシーなどのコミュニケーションスキルを学びます。 5. 生活科学学科の学科共通科目 衣、食、住、情報、人間関係、子育て、消費者教育に関する科目を通して、生活科学を学びます。
教育方法	1. 主体的な学びを実践するため、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を取り入れます。 2. 学修成果の到達度については、各科目の成績評価にもとづく生活科学学科の学修成果確認シート及び修学ポートフォリオ「充実した学生生活を送るために」を学期ごとに配布し自己評価を行い、クラスアドバイザーとの面談を通して振り返りと目標設定を行います。
学修成果の評価	本学科では、生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる「生活科学学科の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)の修得状況は、以下の方法により把握し、評価します。 1. 各科目の講義概要に示す配点比率にもとづく成績評価 2. 各科目の成績評価から得られるGPA 3. 各専攻で支援する免許・資格の取得状況 4. 学修成果確認シート 5. 学修行動に関する調査(他機関によるものを含む)の結果

## 教育における三つの方針

専攻別	生活情報デザイン専攻	食物栄養専攻
	「生活情報デザイン専攻の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)を身につけるために開講する専攻専門科目に関する教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のよう	「食物栄養専攻の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)を身につけるために開講する専攻専門科目に関する教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のよう
教育内容	<p>1. 情報技術科目 情報社会において、情報通信技術を扱う知識・技能を習得します。特に、情報技術科目で学んだ知識・技能にもとづき、問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけます。情報技術科目における学修成果の根拠として、「情報処理士」資格が取得できます。</p> <p>2. マネジメント技法科目 多様な職業に対応するため、実務全体に必要な知識・技能を習得します。特に、マネジメント技法科目で学んだ知識・技能にもとづき、問題を発見・解決するための確かな判断力を身につけます。マネジメント技法科目における学修成果の根拠として、「ビジネス実務士」資格が取得できます。</p> <p>3. デザイン表現科目 モノ・コトの価値を創造する知識・技能を習得します。特に、デザイン表現科目で学んだ知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけます。</p> <p>4. 総合科目 情報技術、マネジメント技法、デザイン表現という3分野にわたる総合的な課題に対してチームで問題を解決する場合に必要な能力を学びます。また、自らのキャリアを設計し実現する場合に必要な能力を学びます。2年次の「専門演習」及び必修科目「卒業研究」により、教育内容の統合と総合化を行います。</p>	<p>1. 栄養士免許に関する科目 医療機関、学校、福祉施設、事業所などの集団および個人に対する「食」によって、人の健康を守ることができる優れた栄養士の養成を目的として、以下の専門分野について基礎から応用、実践系と体系的に学べる教育課程を編成します。</p> <p>(1) 社会生活と健康 社会や環境と健康との関係を理解し、保健・医療・福祉の概要について学びます。</p> <p>(2) 人体の構造と機能 人体の仕組みと、食事・運動・休養などの生活活動や環境変化に対する人体の適応を理解するための科目を学びます。</p> <p>(3) 食品と衛生 食品成分の栄養特性、食品の安全性の重要性、衛生管理の方法について学びます。</p> <p>(4) 栄養と健康 「栄養」の意義を理解し、性別、年齢別の栄養を、さらに健康状態などに対応する食事のあり方について学びます。</p> <p>(5) 栄養の指導 個人や集団レベルでの栄養指導の基本的役割や方法を理解するための科目を学びます。</p> <p>(6) 給食の運営 給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理の基礎知識や技術を習得し、給食サービスに関する実践方法を学びます。</p> <p>2. フードスペシャリスト資格に関する科目 フードスペシャリスト資格の取得に必要な科目を体系的・系統的に配置しています。</p> <p>3. 総合科目 2年次の卒業研究および専門演習により、専攻専門科目を中心とする教育内容の統合と総合化を行います。</p>
教育方法	<p>1. 経験学習サイクルの活用 経験学習サイクル(①経験「やってみよう!」、②振り返り「どうだった?」、③マイセオリー「次はこうしよう!」、④チャレンジ「試してみよう!」)を繰り返すことにより、経験を通して学習を習慣化します。その際、学生がリアリティを持つ実践的な学びを行うため、論理的思考やデザイン思考を用いた課題解決型学習やプロジェクト型学習を適切に実施します。</p> <p>2. 学習を支援するICTの活用 (1) BYODの推奨 学生自身のノートパソコン等を持参して学ぶBYOD(Bring Your Own Device)を推奨します。大学でもWi-Fiを用いて、自宅と同じパソコンで授業に取り組めます。制作物の撮影やプレゼンテーションの録画にスマートフォンも活用します。 (2) 学習支援システムの活用 e-Learning等の学習支援システムとして、Moodle(学習管理システム)、YouTube、Googleドライブ等を活用します。 (3) 生活情報デザイン専攻ラーニングポートフォリオを用いた学びの可視化を各学期末に、eポートフォリオに蓄積した根拠にもとづき、学修成果の到達度を自己評価し、学びを振り返る「生活情報デザイン専攻ラーニングポートフォリオ」を作成します。学修行動調査の結果等もポートフォリオに蓄積し、自己理解や自己肯定に活用します。</p>	<p>1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育を専門科目で実施します。</p> <p>2. 専門科目ではレポート課題を課す時期と課題の整合性・連続性を考慮し、期中のフィードバックを行います。</p> <p>3. 学習の到達度について、各学期末に学生が「充実した学生生活を送るために」や学修成果確認シート等で自己評価を行い、クラスアドバイザーの指導を通じて、その後の修学姿勢の改善を促します。</p> <p>4. 国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために、栄養士実力認定試験を導入し、専攻教員による模擬試験や試験対策のための時間を設けます。</p> <p>5. 校外実習は、課題解決型学習を用い、指導教員および臨地指導者からその現場における助言を受けながら学修を深めます。また、小グループでのグループ学習により他者の意見も聞き、考えを広げます。これらを発展的に繰り返しながら、学内で学んだ専門知識を活用した問題発見・問題解決の方法の修得をはかります。</p>

## 教育における三つの方針

	<p>3. 学修成果の根拠としての資格取得の推進 (1) 本専攻で開講する指定科目を修得することにより、全国大学実務教育協会の資格「情報処理士」及び「ビジネス実務士」を取得できます。 (2) 授業と連携した資格の取得を支援します。 (3) 専攻が主催する対策講座による資格取得を支援します。 (4) キャリア支援課と連携した対策講座による資格取得を支援します。</p>	
学修成果の評価	<p>生活情報デザイン専攻では、生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる「生活情報デザイン専攻の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)の修得状況は、以下の方法により把握し、評価します。</p> <p>1. 各科目の講義概要に示す配点比率にもとづく成績評価 2. 各科目の成績評価から得られるGPA 3. 本専攻で支援する免許・資格の取得状況 4. 学修成果確認シート 5. 学修行動に関する調査(他機関によるものを含む)の結果 6. ジェネリックスキルテスト 7. 情報活用力診断テスト 8. 生活情報デザイン専攻ラーニングポートフォリオ</p>	<p>食物栄養専攻では、生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる「食物栄養専攻の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)の修得状況は、以下の方法により把握し、評価します。</p> <p>1. 各科目の講義概要に示す配点比率にもとづく成績評価 2. 各科目の成績評価から得られるGPA 3. 本専攻で支援する免許・資格の取得状況 4. 学修成果確認シート 5. 学修行動に関する調査(他機関によるものを含む)の結果 6. 栄養士実力認定試験(全国の栄養士養成課程における評価)</p>
<p>■生活科学学科の「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)</p> <p>生活科学学科では、専攻ごとに「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)を定めています。</p>		
専攻別	生活情報デザイン専攻	食物栄養専攻
	生活情報デザイン専攻は、各種選抜試験を通して、下記の能力を備えた人物を入学者として求めています。	食物栄養専攻は、各種選抜試験を通して、下記の能力を備えた人物を入学者として求めています。
知識・技能	1. 短期大学における学修に必要な基礎的学力及び知識を身につけている。	1. 短期大学における学修に必要な基礎的学力及び知識を身につけている。 2. 他者の話を聞いて内容を理解し、まとめることができる。
思考力・判断力・表現力	2. 自分の行動について計画を立てることができる。 3. 自分の考えを自分の言葉で他者へ伝えることができる。	3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
主体性・多様性・協働性	4. 情報技術、マネジメント技法、デザイン表現に関して、主体的に学ぶ意欲がある。 5. 生活や社会における様々な物事に興味・関心がある。 6. 地域活動に関心を持ち、自ら他者と関わる姿勢がある。	4. 栄養士をめざし、よりよい食生活の実現によって人々を健康にすることに興味を持っている。

## 教育における三つの方針

## 幼児教育学科

幼児教育学科(以下、「本学科」という。)は、建学の精神である「仁愛兼済」の理念のもと、幅広い教養を身につけ、子どもの理解及びその指導に関する専門知識と技能の教授研究を通して、心豊かで有能な人材を育成することを目的としています。

本学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)は、以下のとおりです。

## ■幼児教育学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

本学科では、子どもとともに響き合い、いのちの大切さを自覚するとともに、他者への思いやりと感謝の心を持った学生を育てることをめざしています。本学の課程を修め、教養科目12単位以上、学科専門科目52単位以上、合計64単位以上の修得と必修等の条件を満たしたうえで、本学科で身に付けるべき能力(学修成果)を備えた学生に学位「短期大学士(幼児教育)」を授与します。

## ●幼児教育学科の学修成果

本学科で開講する教養科目及び専門科目を修得することにより、下記の能力(学修成果)を身につけます。

知識・技能	1. 保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 2. 子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門知識を身につけている。 3. 保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 4. 保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
思考力・判断力・表現力	5. 保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 6. 保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
主体性・多様性・協働性	7. 子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 8. 他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 9. 自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。

## ■幼児教育学科の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる本学科の学修成果(卒業時に備えるべき能力)を学生が身につけ、幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の他、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格などの関連資格を取得することができるよう、豊かな人間性と幅広い教養を養う教養科目及び専門的能力を養う専門科目を、講義、演習及び実習を適切に組み合わせて体系的に編成します。教育課程の体系は、カリキュラムマップによって、わかりやすく明示します。

本学科で開講する科目の教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

教育内容	1. 教養科目 (1)「建学の精神」に関する科目 講義、仏教行事を含む演習、学外ボランティアなどを通して、保育者としての基本的な姿勢を形成する建学の精神「仁愛兼済」を学びます。 (2)「現代の教養」に関する科目 文学や法学などの講義を通して、豊かな人間性と教養を学びます。 (3)「健康」に関する科目 運動に関する講義や実技などを通して、健康や体力を管理する上で必要な基本的知識や方法について学びます。 (4)「コミュニケーションスキル」に関する科目 外国語でのコミュニケーション、情報リテラシーを通して、保育現場で活かすことのできるスキルを学びます。 2. 学科専門科目 (1) 保育・教育の本質や目的の理解に関する科目 教育や福祉などに関する講義・演習を通して、保育・教育の意義や目的、保育者の役割や専門性などについて学びます。 (2) 保育の対象となる「子ども」や「家庭」の理解に関する科目 子どもの発達や保健、食などに関する講義や演習を通して、乳幼児期の発達や健康・安全を守る知識や技術、家庭への援助の方法などを学びます。 (3) 保育の内容や方法について学ぶ科目 幼稚園や保育所、認定こども園における保育の内容や方法に関する講義や演習を通して、保育の内容や子どもへの援助の方法などについて学びます。1年次には基本的な保育の内容について、2年次には専門性の高い内容や自身の課題に基づいた内容を一部選択して学びます。
------	--

## 教育における三つの方針

教育内容	(4) 保育の表現技術について学ぶ科目(「表現力育成プログラム」) 1年次前期に、音楽表現、身体表現、造形表現、言語表現など、保育現場で必要とされる基礎的な表現技術を学びます。2年次には、さらに表現力を育成する内容を選択して学びます。 (5) 保育者の業務を体験する実習科目 1年次前期の学習を基に附属幼稚園教育実習に、1年次の学習を基に保育所(参加・観察)実習に臨みます。2年次には、幼稚園(指導)実習、施設実習、保育所または施設(指導)実習に臨み、保育者の業務を体験的に学習します。 (6) 保育・教育を総合的に学ぶ科目 2年次に、1年次の学習での興味・関心を発展させ、自己の課題について探究的に学習します。また2年次後期においては、2年間の学習及び実習経験を総括し、自己の課題の克服と資質・能力のさらなる向上につなげます。
------	---

教育方法	1. 主体的な学びの力やコミュニケーション力を高めるために、アクティブ・ラーニングや課題解決型学習、協働型学習を取り入れた教育を行います。 2. 各授業で学んだ内容を基に実習に取り組み、実習で得られた自己の課題を各授業の中で解決できるように、実習と授業科目の往還(つながり)を重視した教育を行います。また、保育ボランティアを推奨し、現場の保育者の姿に学びながら保育実践力の育成を図ります。 3. 実習に関しては、実習担当教員を中心に学内での実習指導を行い、実習中には全専任教員で学生の実習状況を把握するなど、学科全体で連携して指導に取り組みます。 4. レポート課題を課す時期と課題の整合性・連続性を考慮し、形成的評価のために期間中のフィードバックに努めます。 5. 学習の到達度について、各学期末に学生が「充実した学生生活を送るために」や学修成果確認シート等で自己評価を行い、クラスアドバイザーを中心に、一人ひとりの学生に応じたきめ細やかな学習指導、及び、免許・資格取得のための履修指導を行います。
------	--

学修成果の評価	本学科では、幼児教育学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる「幼児教育学科の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)の修得状況は、以下の方法により把握し、評価します。 1. 各科目の講義概要に示す配点比率に基づく成績評価 2. 各科目の成績評価から得られるGPA 3. 本学科で支援する免許・資格の取得状況 4. 学修成果確認シート 5. 学修行動に関する調査(他機関によるものを含む)の結果 6. 「保育者育成のためのキャリア・ルーブリック」を用いた学修の自己評価 7. 幼児教育学科発表会(「保育総合ゼミナール」等の成果発表)
---------	---

## ■幼児教育学科の「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

本学科は、各種選抜試験を通して、下記の能力を備えた人物を入学者として求めています。

知識・技能	1. 短期大学における学修に必要な基礎学力及び知識を身につけている。 2. 総合型選抜A(ステップアップ型)を受験する場合は、音楽表現、造形表現、身体表現のいずれかにおいて優れた能力を有している。
思考力・判断力・表現力	3. 他者の話や意見を聴くことができる。 4. 自分の考えを自分の言葉や文章で他者に伝えることができる。
主体性・多様性・協働性	5. 子どもに関心を持ち、その成長を支援したいという意欲を持っている。 6. 将来、教育や福祉分野に関連したことで、社会に貢献したいという目的意識を持っている。

# 令和4年度 入学生

ディプロマ・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

アドミッション・ポリシー

## 仁愛女子短期大学(大学全体)の三つの方針

### 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

仁愛女子短期大学は、すべてのいのちのつながりの尊重と相互敬愛の仏教精神を基本とする「仁愛兼濟」の建学の精神のもと、教育基本法および学校教育法に遵い、専門の学芸の教授研究と徳性の涵養を通して、教養豊かにして社会の発展に貢献する健全有為な女性を育成することを目的としています。このため次に掲げる学修成果を修得し、本学の定める卒業要件を満たした学生に、短期大学士の学位を授与します。

1. 建学の精神に沿った学びを通して、豊かな人間性と幅広い教養を身につけている。
2. 授与される短期大学士の学位の分野に応じた専門的な知識・技能を修得し、実践的な能力を身につけている。
3. 四恩に気づき、和敬・精進・反省の態度を身につけている。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

学科(専攻)ごとに定めたディプロマ・ポリシーに示す学修成果を獲得するため、豊かな人間性と幅広い教養を養う「教養科目」及び専門的能力を養う「専門科目」で編成し、講義、演習、実験・実習・実技を適切に組み合わせた授業を体系的に配置します。

### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

本学の建学の精神及び教育理念に基づいた教育研究活動に取り組める、以下のような人物を入学者として求めています。

1. 豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、人とのつながりを大切にしようとする人。
2. 明確な目的意識を持ち、高い専門性を身につけるために主体的に学ぼうとする人。
3. さまざまな事柄に関心を持ち、諸活動に意欲的に取り組もうとする人。

## 学科の三つの方針

### 生活科学学科

生活科学学科(以下、「本学科」という。)は、建学の精神である「仁愛兼濟」の理念のもと、教養及び生活に関する科学的理解を基盤とした専門知識と技能を教授し、心豊かで有能な人材を育成することを目的としています。

本学科は生活情報デザイン専攻・食物栄養専攻の2専攻で構成され、各分野についてより専門的に教授研究を行うこととしています。

本学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)は、以下のとおりです。

#### ■生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

本学科では、本学の課程を修め、教養科目10単位以上の修得、学科共通科目10単位以上の修得、各専攻専門科目を含めた合計64単位以上の修得と必修等の条件を満たしたうえで、下記の能力(生活科学学科の学修成果)及び所属する専攻で身につけるべき能力(専攻の学修成果)を備えた学生に学位「短期大学士(生活科学)」を授与します。

#### ●生活科学学科の学修成果

本学科で開講する教養科目及び学科共通科目を修得することにより、建学の精神及び学園是に沿って、下記の能力(学修成果)を身につけます。

知識・技能	1. 人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 2. 人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。 3. 人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。
思考力・判断力・表現力	4. 社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 5. 社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 6. 社会生活における他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。
主体性・多様性・協働性	7. 他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。(和敬) 8. 自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進) 9. 人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)

専攻別	生活情報デザイン専攻	食物栄養専攻
	生活情報デザイン専攻で開講する専門科目を修得することにより、下記の能力(学修成果)を身につけます。	食物栄養専攻で開講する専門科目を修得することにより、下記の能力(学修成果)を身につけます。
知識・技能	1. 情報技術に関する知識・技能を身につけている。 2. マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。 3. デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	1. 栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 2. 人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 3. 食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。 4. 栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。
思考力・判断力・表現力	4. 問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 5. 問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。 6. 他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	5. 常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 6. 栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 7. 専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。
主体性・多様性・協働性	7. 主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 8. 建学の精神「仁愛兼濟」にもとづき、多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。 9. 地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	8. 自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力に取り組むことができる。 9. 「仁愛兼濟」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。

#### ■生活科学学科の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

本学科は、生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる生活科学学科及び所属する専攻の学修成果(卒業時に備えるべき能力)を身につけるため、教養科目、学科共通科目、専攻専門科目を体系的に編成し、講義、演習及び実習を適切に組み合わせた授業を開講します。教育課程の体系は、各科目の学修成果を示したカリキュラムマップによって、わかりやすく明示します。

#### ●生活科学学科が開講する教養科目及び学科共通科目の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

「生活科学学科の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)を身につけるために開講する教養科目及び学科共通科目に関する教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

教育内容	1. 「建学の精神」に関する教養科目 すべてのいのちのつながりを重んじ、美しい世をひらくために尽くす心と力を育てます。建学の精神「仁愛兼濟」についての講義と仏教行事の体験、他者の考えや活動報告への傾聴、学外ボランティアなどを通して、総合的に学びます。 2. 「現代の教養」に関する教養科目 「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」に関する講義、社会人になるためのマナーに関する演習などを通して、教養を学びます。 3. 「健康」に関する教養科目 講義及び実技を通して、健康や体力づくりについて学びます。 4. 「コミュニケーションスキル」に関する教養科目 英語や中国語の外国語と情報リテラシーなどのコミュニケーションスキルを学びます。 5. 生活科学学科の学科共通科目 衣、食、住、情報、人間関係、子育て、消費者教育に関する科目を通して、生活科学を学びます。
教育方法	1. 主体的な学びを実践するため、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を取り入れます。 2. 学修成果の到達度については、各科目の成績評価にもとづく生活科学学科の学習成果確認シート及び修学ポートフォリオ「充実した学生生活を送るために」を学期ごとに配布し自己評価を行い、クラスアドバイザーとの面談を通して振り返りと目標設定を行います。
学修成果の評価	本学科では、生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる「生活科学学科の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)の修得状況は、以下の方法により把握し、評価します。 1. 各科目の講義概要に示す配点比率にもとづく成績評価 2. 各科目の成績評価から得られるGPA 3. 各専攻で支援する免許・資格の取得状況 4. 学修成果確認シート 5. 学修行動に関する調査(他機関によるものを含む)の結果

## 教育における三つの方針

専攻別	生活情報デザイン専攻	食物栄養専攻
	「生活情報デザイン専攻の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)を身につけるために開講する専攻専門科目に関する教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のよう	「食物栄養専攻の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)を身につけるために開講する専攻専門科目に関する教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のよう
教育内容	<p>1. 情報技術科目 情報社会において、情報通信技術を扱う知識・技能を習得します。特に、情報技術科目で学んだ知識・技能にもとづき、問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけます。情報技術科目における学修成果の根拠として、「情報処理士」資格が取得できます。</p> <p>2. マネジメント技法科目 多様な職業に対応するため、実務全体に必要な知識・技能を習得します。特に、マネジメント技法科目で学んだ知識・技能にもとづき、問題を発見・解決するための確かな判断力を身につけます。マネジメント技法科目における学修成果の根拠として、「ビジネス実務士」資格が取得できます。</p> <p>3. デザイン表現科目 モノ・コトの価値を創造する知識・技能を習得します。特に、デザイン表現科目で学んだ知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけます。</p> <p>4. 総合科目 情報技術、マネジメント技法、デザイン表現という3分野にわたる総合的な課題に対してチームで問題を解決する場合に必要な能力を学びます。また、自らのキャリアを設計し実現する場合に必要な能力を学びます。2年次の「専門演習」及び必修科目「卒業研究」により、教育内容の統合と総合化を行います。</p>	<p>1. 栄養士免許に関する科目 医療機関、学校、福祉施設、事業所などの集団および個人に対する「供食」によって、人の健康を守ることができる優れた栄養士の養成を目的として、以下の専門分野について基礎から応用、実践系と体系的に学べる教育課程を編成します。</p> <p>(1) 社会生活と健康 社会や環境と健康との関係を理解し、保健・医療・福祉の概要について学びます。</p> <p>(2) 人体の構造と機能 人体の仕組みと、食事・運動・休養などの生活活動や環境変化に対する人体の適応を理解するための科目を学びます。</p> <p>(3) 食品と衛生 食品成分の栄養特性、食品の安全性の重要性、衛生管理の方法について学びます。</p> <p>(4) 栄養と健康 「栄養」の意義を理解し、性別、年齢別の栄養を、さらに健康状態などに対応する食事のあり方について学びます。</p> <p>(5) 栄養の指導 個人や集団レベルでの栄養指導の基本的役割や方法を理解するための科目を学びます。</p> <p>(6) 給食の運営 給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理の基礎知識や技術を習得し、給食サービスに関する実践方法を学びます。</p> <p>2. フードスペシャリスト資格に関する科目 フードスペシャリスト資格の取得に必要な科目を体系的・系統的に配置しています。</p> <p>3. 総合科目 2年次の卒業研究および専門演習により、専攻専門科目を中心とする教育内容の統合と総合化を行います。</p>
教育方法	<p>1. 経験学習サイクルの活用 経験学習サイクル(①経験「やってみよう!」、②振り返り「どうだった?」、③マイセオリー「次はこうしよう!」、④チャレンジ「試してみよう!」)を繰り返すことにより、経験を通して学習を習慣化します。その際、学生がリアリティを持つ実践的な学びを行うため、論理的思考やデザイン思考を用いた課題解決型学習やプロジェクト型学習を適切に実施します。</p> <p>2. 学習を支援するICTの活用 (1) BYODの推奨 学生自身のノートパソコン等を持参して学ぶBYOD(Bring Your Own Device)を推奨します。大学でもWi-Fiを用いて、自宅と同じパソコンで授業に取り組めます。制作物の撮影やプレゼンテーションの録画にスマートフォンも活用します。 (2) 学習支援システムの活用 e-Learning等の学習支援システムとして、Moodle(学習管理システム)、YouTube、Googleドライブ等を活用します。 (3) 生活情報デザイン専攻ラーニングポートフォリオを用いた学びの可視化を各学期末に、eポートフォリオに蓄積した根拠にもとづき、学修成果の到達度を自己評価し、学びを振り返る「生活情報デザイン専攻ラーニングポートフォリオ」を作成します。学修行動調査の結果等もポートフォリオに蓄積し、自己理解や自己肯定に活用します。</p>	<p>1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育を専門科目で実施します。</p> <p>2. 専門科目ではレポート課題を課す時期と課題の整合性・連続性を考慮し、期中のフィードバックを行います。</p> <p>3. 学習の到達度について、各学期末に学生が「充実した学生生活を送るために」や学修成果確認シート等で自己評価を行い、クラスアドバイザーの指導を通じて、その後の修学姿勢の改善を促します。</p> <p>4. 国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために、栄養士実力認定試験を導入し、専攻教員による模擬試験や試験対策のための時間を設けます。</p> <p>5. 校外実習は、課題解決型学習を用い、指導教員および臨地指導者からその現場における助言を受けながら学修を深めます。また、小グループでのグループ学習により他者の意見も聞き、考えを広げます。これらを発展的に繰り返しながら、学内で学んだ専門知識を活用した問題発見・問題解決の方法の修得をはかります。</p>

## 教育における三つの方針

	<p>3. 学修成果の根拠としての資格取得の推進 (1) 本専攻で開講する指定科目を修得することにより、全国大学実務教育協会の資格「情報処理士」及び「ビジネス実務士」を取得できます。 (2) 授業と連携した資格の取得を支援します。 (3) 専攻が主催する対策講座による資格取得を支援します。 (4) キャリア支援課と連携した対策講座による資格取得を支援します。</p>	
学修成果の評価	<p>生活情報デザイン専攻では、生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる「生活情報デザイン専攻の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)の修得状況は、以下の方法により把握し、評価します。</p> <p>1. 各科目の講義概要に示す配点比率にもとづく成績評価 2. 各科目の成績評価から得られるGPA 3. 本専攻で支援する免許・資格の取得状況 4. 学修成果確認シート 5. 学修行動に関する調査(他機関によるものを含む)の結果 6. ジェネリックスキルテスト 7. 情報活用力診断テスト 8. 生活情報デザイン専攻ラーニングポートフォリオ</p>	<p>食物栄養専攻では、生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる「食物栄養専攻の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)の修得状況は、以下の方法により把握し、評価します。</p> <p>1. 各科目の講義概要に示す配点比率にもとづく成績評価 2. 各科目の成績評価から得られるGPA 3. 本専攻で支援する免許・資格の取得状況 4. 学修成果確認シート 5. 学修行動に関する調査(他機関によるものを含む)の結果 6. 栄養士実力認定試験(全国の栄養士養成課程における評価)</p>
<p>■生活科学学科の「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)</p> <p>生活科学学科では、専攻ごとに「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)を定めています。</p>		
専攻別	生活情報デザイン専攻	食物栄養専攻
	生活情報デザイン専攻は、各種選抜試験を通して、下記の能力を備えた人物を入学者として求めています。	食物栄養専攻は、各種選抜試験を通して、下記の能力を備えた人物を入学者として求めています。
知識・技能	1. 短期大学における学修に必要な基礎的学力及び知識を身につけている。	1. 短期大学における学修に必要な基礎的学力及び知識を身につけている。 2. 他者の話を聞いて内容を理解し、まとめることができる。
思考力・判断力・表現力	2. 自分の行動について計画を立てることができる。 3. 自分の考えを自分の言葉で他者へ伝えることができる。	3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
主体性・多様性・協働性	4. 情報技術、マネジメント技法、デザイン表現に関して、主体的に学ぶ意欲がある。 5. 生活や社会における様々な物事に興味・関心がある。 6. 地域活動に関心を持ち、自ら他者と関わる姿勢がある。	4. 栄養士をめざし、よりよい食生活の実現によって人々を健康にすることに興味を持っている。

## 教育における三つの方針

## 幼児教育学科

幼児教育学科(以下、「本学科」という。)は、建学の精神である「仁愛兼済」の理念のもと、幅広い教養を身につけ、子どもの理解及びその指導に関する専門知識と技能の教授研究を通して、心豊かで有能な人材を育成することを目的としています。

本学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)は、以下のとおりです。

## ■幼児教育学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

本学科では、子どもとともに響き合い、いのちの大切さを自覚するとともに、他者への思いやりと感謝の心を持った学生を育てることをめざしています。本学の課程を修め、教養科目10単位以上、学科専門科目54単位以上、合計64単位以上の修得と必修等の条件を満たしたうえで、本学科で身に付けるべき能力(学修成果)を備えた学生に学位「短期大学士(幼児教育)」を授与します。

## ●幼児教育学科の学修成果

本学科で開講する教養科目及び専門科目を修得することにより、下記の能力(学修成果)を身につけます。

知識・技能	1. 保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 2. 子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門知識を身につけている。 3. 保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 4. 保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
思考力・判断力・表現力	5. 保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 6. 保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
主体性・多様性・協働性	7. 子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 8. 他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 9. 自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。

## ■幼児教育学科の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる本学科の学修成果(卒業時に備えるべき能力)を学生が身につけ、幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の他、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格などの関連資格を取得することができるよう、豊かな人間性と幅広い教養を養う教養科目及び専門的能力を養う専門科目を、講義、演習及び実習を適切に組み合わせて体系的に編成します。教育課程の体系は、カリキュラムマップによって、わかりやすく明示します。

本学科で開講する科目の教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

教育内容	1. 教養科目 (1)「建学の精神」に関する科目 講義、仏教行事を含む演習、学外ボランティアなどを通して、保育者としての基本的な姿勢を形成する建学の精神「仁愛兼済」を学びます。 (2)「現代の教養」に関する科目 文学や法学などの講義を通して、豊かな人間性と教養を学びます。 (3)「健康」に関する科目 運動に関する講義や実技などを通して、健康や体力を管理する上で必要な基本的知識や方法について学びます。 (4)「コミュニケーションスキル」に関する科目 外国語でのコミュニケーション、情報リテラシーを通して、保育現場で活かすことのできるスキルを学びます。 2. 学科専門科目 (1) 保育・教育の本質や目的の理解に関する科目 教育や福祉などに関する講義・演習を通して、保育・教育の意義や目的、保育者の役割や専門性などについて学びます。 (2) 保育の対象となる「子ども」や「家庭」の理解に関する科目 子どもの発達や保健、食などに関する講義や演習を通して、乳幼児期の発達や健康・安全を守る知識や技術、家庭への援助の方法などを学びます。 (3) 保育の内容や方法について学ぶ科目 幼稚園や保育所、認定こども園における保育の内容や方法に関する講義や演習を通して、保育の内容や子どもへの援助の方法などについて学びます。1年次には基本的な保育の内容について、2年次には専門性の高い内容や自身の課題に基づいた内容を一部選択して学びます。
------	--

## 教育における三つの方針

教育内容	(4) 保育の表現技術について学ぶ科目(「表現力育成プログラム」) 1年次前期に、音楽表現、身体表現、造形表現、言語表現など、保育現場で必要とされる基礎的な表現技術を学びます。2年次には、さらに表現力を育成する内容を選択して学びます。 (5) 保育者の業務を体験する実習科目 1年次前期の学習を基に附属幼稚園教育実習に、1年次の学習を基に保育所(参加・観察)実習に臨みます。2年次には、幼稚園(指導)実習、施設実習、保育所または施設(指導)実習に臨み、保育者の業務を体験的に学習します。 (6) 保育・教育を総合的に学ぶ科目 2年次に、1年次の学習での興味・関心を発展させ、自己の課題について探究的に学習します。また2年次後期においては、2年間の学習及び実習経験を総括し、自己の課題の克服と資質・能力のさらなる向上につなげます。
教育方法	1. 主体的な学びの力やコミュニケーション力を高めるために、アクティブ・ラーニングや課題解決型学習、協働型学習を取り入れた教育を行います。 2. 各授業で学んだ内容を基に実習に取り組み、実習で得られた自己の課題を各授業の中で解決できるように、実習と授業科目の往還(つながり)を重視した教育を行います。また、保育ボランティアを推奨し、現場の保育者の姿に学びながら保育実践力の育成を図ります。 3. 実習に関しては、実習担当教員を中心に学内での実習指導を行い、実習中には全専任教員で学生の実習状況を把握するなど、学科全体で連携して指導に取り組みます。 4. レポート課題を課す時期と課題の整合性・連続性を考慮し、形成的評価のために期間中のフィードバックに努めます。 5. 学習の到達度について、各学期末に学生が「充実した学生生活を送るために」や学修成果確認シート等で自己評価を行い、クラスアドバイザーを中心に、一人ひとりの学生に応じたきめ細やかな学習指導、及び、免許・資格取得のための履修指導を行います。
学修成果の評価	本学科では、幼児教育学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げる「幼児教育学科の学修成果」(卒業時に備えるべき能力)の修得状況は、以下の方法により把握し、評価します。 1. 各科目の講義概要に示す配点比率に基づく成績評価 2. 各科目の成績評価から得られるGPA 3. 本学科で支援する免許・資格の取得状況 4. 学修成果確認シート 5. 学修行動に関する調査(他機関によるものを含む)の結果 6. 「保育・教職実践演習振り返りシート」を用いた学習の自己評価 7. 幼児教育学科発表会(「保育総合ゼミナール」等の成果発表)

## ■幼児教育学科の「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

本学科は、各種選抜試験を通して、下記の能力を備えた人物を入学者として求めています。

知識・技能	1. 短期大学における学修に必要な基礎学力及び知識を身につけている。 2. 総合型選抜A(ステップアップ型)を受験する場合は、音楽表現、造形表現、身体表現のいずれかにおいて優れた能力を有している。
思考力・判断力・表現力	3. 他者の話や意見を聴くことができる。 4. 自分の考えを自分の言葉や文章で他者に伝えることができる。
主体性・多様性・協働性	5. 子どもに関心を持ち、その成長を支援したいという意欲を持っている。 6. 将来、教育や福祉分野に関連したことで、社会に貢献したいという目的意識を持っている。